

## 並河靖之七宝記念館について

並河靖之(1845・弘化2年～1927・昭和2年)は、明治・大正期に活躍し、帝室技芸員となった七宝家です。並河靖之七宝記念館は、靖之が営んだ「並河七宝」の《工場》と《店》からなる旧並河邸を保存活用し、2003(平成5)年4月に展示公開施設を開館し、21周年を迎えました。

主屋は1893年(明治26)4月に上棟、翌年に竣工し、靖之が住まい暮らし、来客をもてなす場として、並河家の常からの住まいとして、数十年毎の修理を経てきましたが、昨年中は公益財団法人並河靖之有線七宝記念財団にて、さらなる歳月を重ね、未来へと繋ぐため文化財としての本格的な保存修理事業を行いました。休館中は各方面の皆様にご迷惑をおかけしましたが、お陰様で築130年の節目となる昨春にリニューアル開館しました。

2003年の開館当初は、「ナミカワヤスユキ」の名前どころか、「シッポウ」さえも、まだまだ知られざる存在で、開館と同時に七宝などの館藏品より先に建造物や庭園が文化財となり、「七宝」以外の多方面からもご興味をお向けいただきました。2008(平成20)年には国登録有形文化財「工第2号 並河靖之七宝資料千六百六十二点」(七宝、下画、道具類)となり、当館は建造物、庭園、館藏品の全てに文化財価値を有する民間では希少な場所となりました。2015(平成27)年には当館を含む界隈が国重要文化的景観「京都岡崎の文化的景観」に選定され、人々の暮らしや生業など地域の風土により形成された文化性が高く評価されています。

かつて、靖之の養女・並河徳子は「父を語る」と表題した手記を綴っており、すように、記念館を末永く継承していくことこそが、当財団のなによりもの使命と励んでまいります。本日ご来館の皆様には是非とも「並河七宝を語りつぐ」お一人になっていただき、ご支援賜りますれば、実に心強く、嬉しく、幸甚のみぎりです。

公益財団法人 並河靖之有線七宝記念財団 理事長  
並河靖之七宝記念館 館長  
並河 英津子